

平成27年度 第3回湖東圏域公共交通活性化協議会総会

開催日 平成28年3月29日(火) 10時～12時

開催場所 彦根勤労福祉会館 4階 大会議室

出席者 別紙参照

1 開会

2 議事

(1) 「第1号議案 湖東圏域地域公共交通網形成計画」について(資料1-1～1-2)

- ・ 第1号議案について、事務局より議案書に基づき説明及び報告がなされ、異議無く承認された。

(2) 「第2号議案 平成27年度(2015年度)補正予算」について(資料2)

- ・ 第2号議案について、事務局より議案書に基づき説明及び報告がなされ、異議無く承認された。

(3) 「第3号議案 平成28年度事業計画」「第4号議案 平成28年度収支予算」について(資料3-1～3-2)

- ・ 第3号議案および第4号議案について、事務局より議案書に基づき説明及び報告がなされ、以下の通り質疑応答が行われた。その後、会長より承認を求めた結果、異議無く承認された。

● 樋口委員(滋賀県バス協会)

- ・ 平成28年度事業計画の中で、観光客の公共交通利用促進とあり、インバウンドが注目され、ゴールデンルート等が提唱されているが、今後、少人数での旅行者が増加する。多言語対応を行って、スマホを利用した情報提供が主流であるが、湖東圏域においても、多言語対応を行っていないと、インバウンドを取り込めない。いきなり、スマホ対応によるIT化は難しいかもしれないが、今後検討して頂きたい。平成28年度事業の中にも、バス停等での多言語表示など取り入れて欲しい。

● 事務局

- ・ 様々な公共交通において、多言語対応を積極的に進めているとは認識している。これまでの事業内容で具体的に多言語対応を記載してはいないが、今後、できる限り多言語対応を進めていきたい。小さい取り組みではあるが、路線バスの総合路線図・時刻表のタイトルだけ、一部多言語の対応を行っている。

● 山根委員(彦根市副市長)

- ・ 総合路線図のタイトルが小さすぎて分かりづらい。もう少し多言語表記を取り入れないといけないのでは。観光企画課で進めている多言語対応と連携して努力できないのか。

● 事務局

- ・ 具体的にどの資料をどのように多言語化するかは議論が進んでいない状況のため、他の課と連携しながら、時刻表の作成やポスターの作成等を平成 28 年度も実施していく際に、一つずつ対応していきたい。また、資料 3-2 の平成 28 年度収支予算に誤りがあったため、修正して後日委員の皆様へ郵送させて頂く。

● 山根委員（彦根市副市長）

- ・ 収支予算書は後日郵送して頂き、多言語対応はもう少し具体的に検討して頂き、次回の総会にて報告頂きたい。

● 野本委員（聖泉大学教授）

- ・ 外国人が路線バスやコミュニティー的要素が強い愛のりタクシーをどのぐらい利用しているのか。観光課に聞いてもらいたい。また、どのぐらいの言語を表記するのか難しく、京都のように多くの多言語が必要なのか。技術的にできても、見にくくなる可能性がある。スマホやWEB等のキーワードが出ていたが、最近はYouTubeでも情報が提供されている。ビッグデータも活用できる時代なので、実態を把握してから検討しないと、せっかく対策しても非効率で利用してもらえないこともあり得る。そのため、どこまで対応すべきかの検討が必要である。

● 武永委員（滋賀大学教授）

- ・ ホームページを含めて、インターネット対応の事業があったと思うが、進捗状況を教えて欲しい。

● 事務局

- ・ 平成 27 年度事業でも挙げられていたが、湖東圏域内の鉄道、路線バス、愛のりタクシーのダイヤを検索できるシステムを構築したが、乗り継ぎ等の検索結果がうまくいっていない状況である。

● 轟委員（滋賀県立大学准教授）

- ・ 網形成計画における再編実施計画の位置づけと、事業実施を始める時期を教えてください。

● 事務局

- ・ 網形成計画で挙げた事業について、事業実施主体や期間、内容等を詳細に検討したものが再編実施計画となる。網形成計画の事業は H29.3 の策定を受けて、H29.4 から実施する予定である。

● 轟委員（滋賀県立大学准教授）

- ・ 資料 1-2 に記載のあるパーク&ライドは、平常的に走る予定か。

● 事務局

- ・ 都市交通マスタープランの検討時に挙げられた話であるが、具体性に欠けるため、分かり次第報告させて頂く。

● 轟委員（滋賀県立大学准教授）

- ・ 観光シーズンの繁忙期だけ運行するのと、平常的に運行するのでは網形成計画内の記載内容が異なる。記載内容には注意が必要であるため、今後も随時報告して欲しい。

● 山岡委員（滋賀運輸支局）

- ・ 網形成計画の策定、再編実施計画の策定という流れであり、その後に国庫補助が出ることとなる。今後の公共交通維持のためにはインバウンドも大事であるため、検討して頂きたい。

(4) 「第5号議案 生活交通改善事業計画」について（資料4）

- ・ 第5号議案について、事務局より議案書に基づき説明及び報告がなされ、以下の通り質疑応答が行われた。その後、会長より承認を求めた結果、異議無く承認された。

● 山岡委員（滋賀運輸支局）

- ・ 生活交通改善事業計画（バリアフリー化）は、現在、運輸局を通じた国庫補助となっているが、平成28年度から観光庁の対策事業予算へシフトするという情報が入っている。今後は、訪日外国人に関わる色付けが必要になるかもしれない。ただし、国庫補助の詳細はまだ分かっていない。

● 野本委員（聖泉大学教授）

- ・ バリアフリー化と訪日外国人は、関係あるのか。

● 山岡委員（滋賀運輸支局）

- ・ 国の予算として、訪日外国人を重要視していることが関係している。

● 武永委員（滋賀大学教授）

- ・ ノンステップバスの仕様が変わってくる可能性があるということか。

● 山岡委員（滋賀運輸支局）

- ・ 国庫補助の詳細はまだ決まっていないため、運輸局も把握できていない。

(5) 「第6号議案 生活交通ネットワーク計画」について（資料5）

- ・ 第6号議案について、事務局より議案書に基づき説明及び報告がなされ、以下の通り質疑応答が行われた。その後、会長より承認を求めた結果、異議無く承認された。

- 山根委員（彦根市副市長）
 - ・ 生活交通ネットワーク計画の申請はいつなのか。

- 事務局
 - ・ 申請の〆切はまだ分かっていないが、例年としては6月30日である。

(6) 「報告事項1」について（資料6-1～6-2）

- ・ 報告事項1について、事務局より報告がなされた。

(7) その他

- 武永委員（滋賀大学教授）
 - ・ 第4号議案の平成28年度収支予算や、第6号議案の生活交通ネットワーク計画等について、確定案（修正した書類）は作成して委員に送付してもらえるのか。

- 事務局
 - ・ 修正した書類は、各委員へ郵送させて頂く。

- 轟委員（滋賀県立大学准教授）
 - ・ 生活交通ネットワーク計画の資料の修正により、路線毎の計画が変更になる等、関係性を教えて欲しい。

- 事務局
 - ・ 国庫補助は1便あたりの運行回数や運行キロ程の実績から算出しているが、計画自体に変更が生じるわけではない。

- 轟委員（滋賀県立大学准教授）
 - ・ 今年度の実績は今後報告してもらえるのか。

- 事務局
 - ・ 毎年、7月の総会で昨年度の実績を報告させて頂いているため、次回7月の総会で報告させて頂く予定である。ちなみに、愛のりタクシーの実績として、平均乗車密度はH26で1.36人、H27で1.43人、H28で約3万5千人の約2千人増加を想定している。乗車密度は路線によってばらばらで多賀町の路線のように2人以上を超えている路線もある。

- 武永委員（滋賀大学教授）
 - ・ 観光への対応が話題になっているが、愛のりタクシーの位置付けにも関わってくる。

- 野本委員（聖泉大学教授）

- ・ 公共交通の利用者に対して、利用実績や延べ数等など、駅改札等に大きく示すのも良い。愛のりタクシーについては、リピーターが多いのか分析する必要があり、まだまだ利用に関する情報提供が足りないのではないか。
- 山根委員（彦根市副市長）
 - ・ 愛のりタクシーの使い方について、もっと情報提供をすべきである。ただし、各市町で地域活性化、福祉などと、愛のりタクシーに対する考え方が違うため、注意が必要である。
- 武永委員（滋賀大学教授）
 - ・ 利便性向上も良いが、財政面から考えた場合、愛のりタクシーは利用者が増加すれば赤字が増加する構造であるため、単に利用者増加を目指すべきではない。
- 上野委員（甲良町老人クラブ連合会会長）
 - ・ 愛のりタクシーに対する理解は深まっていると思う。各市町には路線バスを使いたくても使えない人も多く存在する。各市町で愛のりタクシーの使い方や役割を考える必要がある。
- 野本委員（聖泉大学教授）
 - ・ 空白地域への対応が愛のりタクシーの本来の目的であったため、事業者が確保している愛のりタクシーの台数や財政の制約の中で検討が必要である。
- 事務局
 - ・ 愛のりタクシーに対する改善について、今後も助言を頂きたい。

3 閉会

以上